

## 第6 地域との協働による教育の推進に向けた県教委の取組



放課後の学習  
南小学校ふれあい学校（秩父市）

県教育委員会では、学校・家庭・地域が積極的に連携・協働するための組織的・継続的な仕組みの下、社会総掛かりで子供たちの学びや成長を支える活動を支援するため、本章に示す様々な取組を行っています。

今後も取組の充実を図り、本県の「地域学校協働活動」のさらなる活性化を図っていきます。

## 1 学校・家庭・地域連携推進委員会

### (1) 趣旨・内容

「学校応援団推進事業」、「放課後子供教室推進事業」及び「埼玉の子ども70万人体験活動」の円滑な運営を図るため、県教育委員会に設置された委員会である。

各活動の推進に係る指導・助言に関すること、学校と家庭・地域社会との連携・協力の在り方に関すること、その他、学校を支える仕組みづくり、体験活動の充実等に関し必要な事項に関することについて、各委員が情報共有、協議等を行い、本県の「地域学校協働活動」の在り方を検討する場となっている。

#### 【委員構成】

保護者・地域住民の代表者、民間団体等の代表者、学識経験者、市町村教育委員会の代表者、小・中学校長の代表者、関係行政機関の職員、教育局関係課所の職員

### (2) 今年度の取組

#### ① 第1回学校・家庭・地域連携推進委員会

- 実施日等 平成30年5月24日(木) 知事公館
- 内 容 ・ 「学校応援団」「放課後子供教室」の推進について など  
・ 協議「地域学校協働活動の推進～ゆるやかにつながる地域ネットワークについて～」

#### ② 第2回学校・家庭・地域連携推進委員会

- 実施日等 平成31年2月5日(火) 知事公館
- 内 容 ・ 「学校応援団」「放課後子供教室」の成果と課題について  
・ 協議「埼玉県における地域学校協働活動の推進について」  
「平成31年度の推進体制及び研究委嘱について」

## 2 学校・家庭・地域連携推進担当者会議

### (1) 趣旨・内容

「推進委員会」のもと、同様の目的により設置された会議である。教育事務所ごとに設置されており、4地区の実態に応じた情報共有、協議の場となっている。

#### 【委員構成】

保護者・地域等の代表者、各市町村教育委員会の代表者、小・中学校長会の代表者、教育事務所の代表者

## (2) 今年度の取組

### ① 第1回学校・家庭・地域連携担当者会議

- 内 容 事業内容の説明、全体協議、班別協議等
- 実施日等 南部 平成30年6月26日(火) 浦和合同庁舎  
西部 // 6月13日(水) ウェスタ川越  
北部 // 6月15日(金) 寄居町中央公民館  
東部 // 5月31日(木) 春日部地方庁舎

### ② 第2回学校・家庭・地域連携担当者会議

- 内 容 事業の推進状況、全体協議、班別協議等
- 実施日等 南部 平成31年1月16日(水) 県立近代美術館  
西部 // 1月16日(水) ウェスタ川越  
北部 // 1月24日(木) 寄居町中央公民館  
東部 // 1月31日(木) 春日部地方庁舎

# 3 学校・家庭・地域連携推進に係る研究委嘱

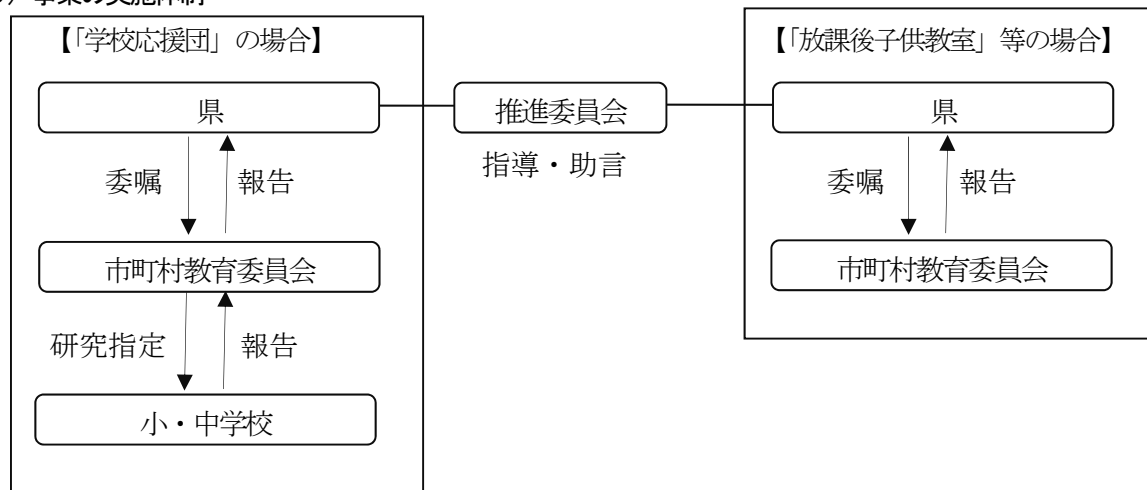
## (1) 趣旨

少子高齢化、グローバル化等の進行、地域社会のつながりや支え合いの希薄化等により、子供を取り巻く環境が大きく変化している現在、地域の教育力を学校に取り込むとともに、地域の拠点として学校が積極的に家庭や地域に働き掛け、学校・家庭・地域が一体となった教育を推進することが求められている。そこで、学校・家庭・地域が連携・協働した取組を進める方策や運用上の課題などについて、実践を通して調査・研究するため、県内の市町村教育委員会に研究を委嘱する。

## (2) 平成30年度研究テーマ

- 地域の教育資源を活用し、学校と地域が連携・協働した取組の推進

## (3) 事業の実施体制



## (4) 研究内容

市町村教育委員会(学校)は、「2 平成30年度研究テーマ」に基づいた独自の研究テーマを設定し、次の〈研究内容例〉を参考に実践研究を進めることとする。

なお、研究の対象としては、「学校応援団」「放課後子供教室」「土曜日の教育支援」「中学生学力アップ教室」のいずれかの事業又は、複数の事業を組み合わせた事業とし、研究の推進に当たっては、市町村教育委員会、学校、地域住民などが相互に意見・情報交換を行う場を積極的に設けるなどして、地域と学校が

連携・協働して活動を進められるよう留意することとする。

※ 「連携・協働」とは、学校と地域住民等が、互いに連絡を取り合い、子供の成長を支えるという同じ目的のために、パートナーとして、互いに協力して共通の課題に取り組むことを意味する。

※ 「地域の教育資源」例

- 人材：商店で働く人、ボランティア活動をする人、企業・NPO団体の人など
- 産業：伝統産業、地場産業、各種企業など
- 文化：伝統文化・料理、史跡、神社・仏閣など
- 自然：森林、河川、海、動植物など
- 施設：博物館、公民館、老人福祉施設、スポーツ施設など

〈研究内容例〉

- ◇ 学びによるまちづくりの取組（地域ブランド製品づくり、地域の観光振興、地域防災マップの作成等）
- ◇ 地域課題解決型学習の取組（地域住民と共に学ぶ防災教室、地域の環境問題解決学習、地域課題を学ぶ子供議会等）
- ◇ 「ふるさと」について学び・体験する郷土学習の取組（地域の産業や商店街の職場体験学習、郷土の伝統・文化芸能学習等）
- ◇ 地域の行事、イベント、お祭り、ボランティア活動等に参画した取組（地域のボランティア体験学習、伝統行事やお祭りでの発表や楽器の演奏、地域の防災訓練への参画等）
- ◇ 放課後子供教室における学習・体験活動の取組（地域人材育成を観点とした伝統文化体験や郷土学習、地域の行事・イベント等への参画等）
- ◇ 外部人材等を活用した土曜日等における教育支援の取組（企業や外部人材等による職場体験活動、プログラミング講座、語学・プレゼンテーション教室等）
- ◇ 多様な教育的ニーズのある子供たちへの学習支援の取組（中学生学力アップ教室）
- ◇ コミュニティ・スクールを活用した地域との連携・協働の取組

#### (5) 委嘱期間

本事業の委嘱期間は、委嘱を受けた日から平成31年2月末日までとする。

#### (6) 委嘱手続

- 委嘱を受けようとする市町村教育委員会は、別添様式による事業計画書を県に提出するものとする。
- 県は、上記により提出された事業計画書の内容を検討し、本事業の趣旨を踏まえた適切な計画であると認めた場合、市町村教育委員会に対して研究を委嘱する。

#### (7) 報告等

委嘱を受けた市町村教育委員会・学校は、次のとおり研究内容等について報告・発表するものとする。

- 学校・家庭・地域連携推進委員会（年2回）に委員として出席し、研究計画の報告（第1回）、研究結果報告（第2回）を行う。（市町村教育委員会代表者1名）
- 研究指定校における研究の実践及び学校・家庭・地域連携実践発表会における発表内容等については、市町村教育委員会の指導助言により進める。
- 研究委嘱市町村教育委員会（学校）は、研究内容に関して視察を受ける。
- 学校・家庭・地域連携実践発表会で研究内容を発表する。
- 年度末に発刊する実践事例集に掲載する「実践事例」をまとめ、提出する。
- 「実績報告書」を県に提出する。（「実績報告書」は、上記の「実践事例」の提出をもって替えることとする。）

(8) 今年度の研究委嘱 ※実践内容については、「第7」をご参照ください。

教育委員会名	指定校名	個別の研究テーマ
上尾市教育委員会	上尾中学校	地域の教育資源を活用し、学校と地域が連携・協働した「コミュニティ・スクール」の取組の推進～「学校運営協議会」と「学校応援団」の連携につながる取組
越生町教育委員会	越生小学校 梅園小学校 越生中学校	地域と学校の連携・協働による学習支援～地域の人材を活用した越生中学校学力アップ教室・サマースクールの取組～
上里町教育委員会	長幡小学校	子供・保護者・地域みんなで「学校大好き100%」～伝統を受け継ぎ、地域を担う子供たちの育成をめざして～
長瀬町教育委員会	長瀬第二小学校	学校・家庭・地域連携推進に係る研究～学校・家庭・地域が一体となった教育活動の推進をめざして～
行田市教育委員会		地域の教育資源を活用し、学校と地域が連携した放課後の居場所づくり推進のための取組～学校と地域の協働組織を核とした主体的参画教室の増設をめざして～

## 4 学校・家庭・地域連携実践発表会

(1) 目的

県内4地区における「学校応援団」「放課後子供教室」「埼玉の子ども70万人体験活動」等の実践発表や協議等を通して、情報の共有化と各事業の充実を図り、学校・家庭・地域の連携を推進する。

(2) 主催

埼玉県教育委員会

(3) 対象

- 管内各市町村立小・中学校・特別支援学校の教職員
- 管内各市町村立小・中学校・特別支援学校のPTA関係者、「学校応援団」・「放課後子供教室」・「埼玉の子ども70万人体験活動」の関係者（担当者、コーディネーター等）
- 管内市町村教育委員会 学校・家庭・地域連携主管課 の担当者

(4) 今年度の取組

南部地区	実施日等	平成30年11月9日（金） 志木市民会館パルシティ 参加者259人
	発表内容	<p>○戸田市児童青少年課 「戸田市放課後子供教室の取組について～一体型取組の経緯と概要～」</p> <p>○蕨市教育委員会・蕨市立北小学校 「地域とともに歩む、明るく笑顔の北小生～地域と学校が連携を図り、子供たちの豊かな心を育む～」</p> <p>○上尾市教育委員会・上尾市立上尾中学校 「地域の教育資源を活用し、学校と地域が連携・協働した『コミュニティ・スクール』の取組の推進～「学校運営協議会」と「学校応援団」の連携につながる取組～」</p>

第6地域との協働による教育の推進に向けた県教委の取組

西部地区	実施日等	平成30年11月22日(木) フレサよしみ 参加者364人
	発表内容	<p>○越生町教育委員会 「地域と学校の連携・協働による学習支援～地域の人材を活用した越生中学校学力アップ教室・サマースクールの取組～」</p> <p>○日高市立高麗川小学校 「学校応援団からコミュニティ・スクールへの展望～すべては子供たちのために～」</p> <p>○東松山市立北中学校 「家庭・地域連携促進事業～学校応援団コーディネーターの支援による教育活動の展開～」</p>

北部地区	実施日等	平成30年11月15日(木) 深谷市川本公民館 参加者186人
	発表内容	<p>○長瀨町立長瀨第二小学校 「学校・家庭・地域連携推進に係る研究～学校・家庭・地域が一体となった教育活動の推進をめざして～」</p> <p>○上里町立長幡小学校 「子供・保護者・地域みんなで「学校大好き100%」～伝統を受け継ぎ、地域を担う子供たちの育成をめざして～」</p> <p>○熊谷市教育委員会 「熊谷市における地域のよさを生かした放課後子供教室の取組」</p>

東部地区	実施日等	平成30年11月28日(水) 蓮田市総合文化会館ハストピア 参加者291人
	発表内容	<p>○吉川市立北谷小学校 「学校応援団～地域に支えられた学校～」</p> <p>○行田市教育委員会 「行田市放課後子ども教室『わくわくクラブ』の取組」</p> <p>○蓮田市立蓮田南中学校 「『みどりの学校ファーム』実践報告」</p>

## 5 埼玉県コーディネーター研修等

### 埼玉県コーディネーター研修

#### (1) 目的

幅広い地域住民等の参画により、地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担う子供たちの成長を支え、地域を創生する活動を推進するために、地域学校協働活動（学校応援団活動・放課後子供教室等）の中核を担う人材を育成するため、「コーディネーター研修」を実施する。

また、地域学校協働活動を推進する上でのコーディネート機能の強化や多様な活動の推進に向けた具体的な研修を行う「コーディネーターステップアップ研修」及び放課後子供教室と放課後児童クラブの連携を円滑に進めるための「放課後子供教室等ステップアップ研修（放課後子供教室・放課後児童クラブ）」を実施する。

#### (2) 主催

埼玉県教育委員会

### (3) 今年度の取組

#### ○コーディネーター研修及び情報交換会

《目的》 地域学校協働活動の中核を担う人材の育成

《対象》 コーディネーターとして活躍中の方、地域学校協働活動に携わっている方等

平成30年度埼玉県コーディネーター研修		
研修会場	期日	参加者数
男女共同参画推進センター「ハートピア」	8月6日(月)	49人
大宮ソニックシティ	8月24日(金)	82人
計		131人

《講義内容》

・事例発表

- 「学校応援団」 8.6 熊谷市立籠原小学校学校応援コーディネーター 仲内 和弘 氏
- 8.24 入間市立東町中学校学校応援コーディネーター 生田 由紀子 氏
- 「放課後子供教室」 8.6 久喜市放課後子供教室コーディネーター 奈良 雄二 氏
- 8.24 横瀬町教育委員会学校教育指導員 設楽 正夫 氏

・講義「学校と地域をつなぐコーディネーターの実際」

NPO法人栃木かめま教育支援ネットワーク 葉 (ひこばえ) 代表理事 渡邊 真知子 氏

・協議 「所属団体のネットワークについて」

#### ○コーディネーターステップアップ研修

《対象》 コーディネーターとして活動中の方及び統括的役割を担っているコーディネーター等

平成30年度埼玉県コーディネーターステップアップ研修		
研修会場	期日	参加者数
ウェスタ川越	9月3日(月)	93人

《講義内容》

・講義Ⅰ「発達障害のある児童生徒への支援について」

県立学校部特別支援教育課 指導主事 坂口 勝信

・講義Ⅱ「学校と子どもの安全」

日本子どもの安全教育総合研究所 理事長 宮田 美恵子 氏

・講義Ⅲ「地域連携のこれから」

NPO 法人スクール・アドバイス・ネットワーク 理事長 生重 幸恵 氏

・協議「学校と地域のつながり」

NPO 法人スクール・アドバイス・ネットワーク 理事長 生重 幸恵 氏

#### ○放課後子供教室等ステップアップ研修 (放課後子供教室・放課後児童クラブ研修)

《目的》 放課後子供教室と放課後児童クラブの連携強化

《対象》 放課後子供教室等のコーディネーター及び放課後児童クラブの指導者等

平成30年度放課後子供教室・放課後児童クラブ合同研修		
研修会場	期日	参加者数
埼玉会館	9月18日(火)	67人

《講義内容》

・講義Ⅰ「発達障害のある児童生徒への支援について」

県立学校部特別支援教育課 指導主事 新井 由美子

- ・事例発表  
「放課後子供教室」毛呂山町放課後子供教室「木曜のあそびクラブ」  
コーディネーター 初野 誠治 氏  
「放課後児童クラブ」特定非営利活動法人三楽 次長 宮田 琢磨 氏
- ・講義Ⅱ「放課後一体型運営のポイント～放課後を子ども達のゴールデンタイムに～」  
NPO 法人アフタースクール チーフエリアマネージャー 有坂 絢子 氏
- ・協議「放課後の児童の居場所について」

## その他の研修

○放課後児童支援員研修会（少子政策課所管）へのコーディネーターの参加

「放課後子供総合プラン」の趣旨をふまえ、放課後児童クラブと放課後子供教室の連携を推進するため、放課後子供教室コーディネーター等も参加。放課後児童支援員との情報交換及び意見交換。

会 場	期 日	放課後子供教室関係者の参加者数
国立女性教育会館	11月23日（金・祝）	10人
埼玉県立大学	12月9日（日）	14人

《講義内容》

- ・全体会（講演）  
「どの子ども笑顔で居られるために～児童虐待 放課後児童クラブとしてできること～」  
東京成徳大学子ども学部講師、社会福祉士 下浦 忠治 氏
- ・主な分科会  
「放課後児童クラブと放課後子供教室の連携」  
11.23 東京家政学院大学准教授 齋藤 史夫 氏  
12.9 埼玉大学講師、「子ども白書」編集委員長 森本 扶 氏

## 6 優良事例等の普及・啓発

- (1) 「地域学校協働活動」の推進について
  - ・『埼玉教育』第72巻第1号 第791号（5月）
  - ・『県教委だより』NO.708号（1月）
- (2) 埼玉県教育委員会メールマガジン「教育さいたまマガジン」による活動内容の紹介
  - ・横瀬町放課後子供教室 6月号（6月）
- (3) 各種研修会等での情報提供
  - ・淑徳大学教育学部生に講義（県政出前講座・11月）
  - ・出羽地区青少年指導員協議会「青少年健全育成講演会」（県政出前講座・12月）
  - ・北本市放課後子ども総合プラン連絡協議会（12月）
  - ・平成30年度加須市『学校いきいきステーション事業』交流会（2月）
  - ・第3回学校応援団づくり推進委員会【越谷市】（2月）
- (4) 『「地域学校協働活動」実践事例集』の発行
  - ・全小・中学校、市町村教育委員会に配布（3月予定）



# 第7 平成30年度 学校・家庭・地域連携 推進に関する研究委嘱 実践事例



サマースクール  
越生町教育委員会

**上尾市** 研究指定校：上尾市立上尾中学校

**研究テーマ** 地域の教育資源を活用し、学校と地域が連携・協働した

「コミュニティ・スクール」の取組の推進  
～「学校運営協議会」と「学校応援団」の連携につながる取組～

### 1 研究のねらい

本校は、平成30年4月から、学校運営協議会を設置したコミュニティ・スクールの取組を開始した。学校が目指す未来像として「市民・県民に誇れる公立中学校～コミュニティ・スクール 上尾中～」を掲げ、生徒や保護者、地域の願いを受け止め、地域に密着した学校、地域と共に歩む学校づくりに努めているところである。具体的には、①学校運営協議会による学校運営支援、②学校・家庭・地域の更なる連携、③学校と地域と一体となった教育活動の推進を柱として取組を進めている。特に設置1年目である今年度は、学校運営協議会の組織的・計画的な実施や、学校と地域が連携・協働した取組を具体的に推進していくことが重要であると捉え、効果的な学校運営協議会の在り方や既存の組織との連携・協働の進め方について、本校の実態に即して実践を進め、調査、研究を行うこととした。

### 2 活動の概要

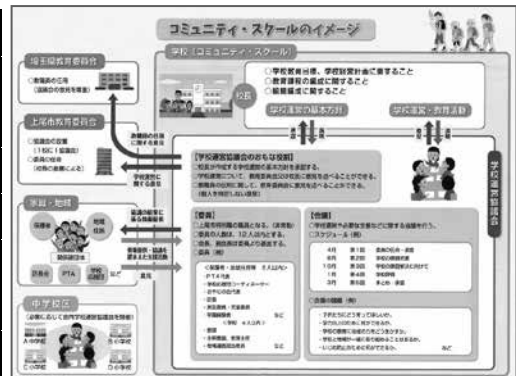
#### (1) 本校の学校運営協議会の体制について

##### ア 委員の構成

本校に在籍する生徒の保護者、PTA本部役員、おやじの会の会員、上尾中学校区の地域の方や事務区長、学識経験者、本校の教職員の計12名が上尾市教育委員会から任命され、本校の学校運営協議会を組織している。

##### イ 開催の実績（予定も含む）

4月18日	第1回：会長互選、平成30年度学校経営案承認等
7月11日	第2回：校内見学、熟議等
9月6日	第3回：校内見学、熟議等
10月11日	第4回：熟議等
11月13日	第5回：「みんなで合唱しよう」検討・役割分担
12月6日	第6回：「みんなで漢検しよう」検討・役割分担
2月12日	第7回：校内見学、平成30年度学校評価等
3月7日	第8回：平成31年度学校経営方針等



#### (2) 家庭・地域への発信について

上尾中学校がコミュニティ・スクールであることについて、各行事の折に生徒や保護者へアナウンスを行った。また、学校運営協議会での熟議の内容や取組について、学校だよりやホームページをはじめ、学校運営協議会委員による「リレーエッセイ」や学校運営協議会だより「わが学び舎」を発行し広く紹介することに努めた。

### 3 研究内容

#### (1) 学校教育目標を地域で共有し地域のコミュニティづくりへ

地域と共に歩む学校づくりには、学校と地域が同じベクトルで取り組むことが大切である。そこで、学校教育目標をどうしたら地域のコミュニティづくりに生かし発展させてい

第7平成30年度学校・家庭・地域連携推進に関する研究委員実践事例

くことができるかをテーマに熟議を行った。その中で、学校教育目標と地域の目標を共に実現させるための手立ての一つとして、今年度は、「みんなで合唱しよう」「みんなで漢検しよう」を取組の大きな柱として実施することを学校運営協議会として決定した。



## (2) 具体的な学びのコミュニティづくりの取組

### ア みんなで合唱しよう

平成30年11月17日(土)、「友垣祭」のオープニングセレモニーで、学校運営協議会主催の第1回記念イベント「みんなで合唱しよう」を行った。これは、本校の全校生徒と教職員はもちろんのこと、学校区内の小学生・保護者・おやじの会・地域の方々みんなで合唱しようという取組である。さらに、当日の運営をお手伝いいただく「運営ボランティア」も募集した。事前に練習会を行い、当日は、校長の指揮を囲む形で総勢1300人を超える大合唱となり、一つの歌を通して感動を共に分かち合う場となった。



〔事前の練習〕



〔運営ボランティア〕



〔小学生から中学生、大人もみんなで合唱〕



### イ みんなで漢検しよう

平成31年1月12日(土)、学校運営協議会主催の「みんなで漢検しよう」を行った。学校区内の小学校や地域を対象に、漢検への参加並びに試験監督・誘導などをお手伝いいただく「運営ボランティア」を募った。当日は、「運営ボランティア」の協力のもと、小学校1年生から中学校3年生までの児童生徒、保護者や地域の方々総勢194名が真剣な面持ちで共に受検し、生涯学び続ける地域が見える場となった。



〔運営ボランティアによる受付・試験監督〕



〔小学生から中学生、大人もみんなで漢検〕



## 4 研究の成果

- (1) 学校運営協議会の回数を重ねていくうちに、熟議が活発で主体的なものになり、委員の意識が高くなった。
- (2) 学校運営協議会が中心となり、既存の学校応援団、PTA、おやじの会の組織力を生かしながら、学校・家庭・地域が一体となって取り組んだことにより、学校教育目標が地域のコミュニティづくりにつながった。

## 5 課題と今後の展望

- (1) 広報活動を更に行うことで、上尾中学校がコミュニティ・スクールであることについて誰もが認識できるようにする。
- (2) 今年度のコミュニティ・スクール上尾中の取組を継承・発展させていくことで、地域との連携を更に深め、地域コミュニティづくりの実現へ近付けていく。

**越生町** 研究指定校：越生町立越生小学校・梅園小学校・越生中学校

**研究テーマ** 地域と学校の連携・協働による学習支援

～地域の人材を活用した越生中学校学力アップ教室・サマースクールの取組～

## 1 研究のねらい

少子高齢化、グローバル化等の地域社会のつながりや支え合いの希薄化等により、子供を取り巻く環境が大きく変化している現在、地域の教育力を学校に取り込むとともに、地域の拠点として学校が積極的に家庭や地域に働き掛け、学校・家庭・地域が一体となった教育を推進することが一層求められている。本町は、「知・徳・体」のバランスのとれた9年間の一貫性のある教育を推進し、地域の特色を生かした学校づくりのための学習環境の充実に努めている。また、地域の学校教育への関心は高く、協力的である。本町のこのような既存の教育資源を最大限に活用し、学校・家庭・地域が連携・協働した学習支援の取組を継続して推進するため、本研究を実施する。

## 2 活動の概要

### (1) 主な活動内容

- ・ 教育資源を活用するための環境整備
- ・ 子供たちへの学習支援
- ・ 家庭生活・家庭学習への支援

### (2) 研究の方法

- ・ 地域の教育資源を活用するために、地域の子供会と連携し、町全体で子供たちへの学習支援が行えるよう組織を整備する。
- ・ 学習ボランティアとして、地域の教員経験のある方、学生、町費の学習支援員等に協力依頼をする。
- ・ 子供たちの学習支援のための補習学習会や体験学習会を企画し、実施する。
- ・ 子供たちの家庭生活や家庭学習が充実するよう、啓発リーフレットを作成する。

## 3 研究内容

### (1) 越生中学校学力アップ教室

中学生を対象に、定期テストや長期休業前までの学習内容の定着を見届けるため「越生中学校学力アップ教室」(補習学習会)を実施した。指導は、町費の臨時講師や学習支援員が行い、一人一人のつまずきに対応した基礎学力の定着を図った。

### (2) サマースクール

地域の子供会で以前から行っていた「夏の学習会」と連携し、小学生を対象に、夏季休業中に、「サマースクール」を5つの地域に拡大して実施した。テキストは、教育委員会で作成し、学習ボランティアが子供たちの学習支援を行った。

学習ボランティアは、地域の教員経験のある方、学生、町費の学習支援員等に協力依頼をした。



〔学生ボランティアによる指導〕

町教育委員会の担当者と子供会育成会など関係団体との会議を開催し、目的の共有化を図るとともに、活動に係る計画の作成を行った。

### (3) 越生町体験講座

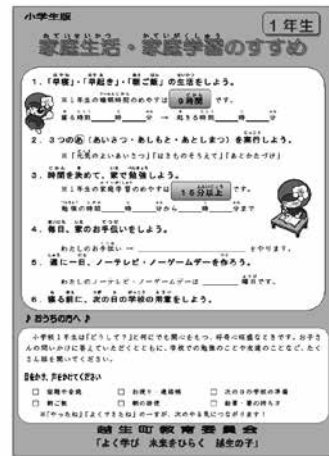
越生町の教育資源を生かし、越生の子供たちに科学や芸術の学びをとおして、科学的思考や芸術性の素地を伸ばしていくことを目的とし、「宇宙」「音楽」「昆虫」「芸術」「科学」「自動車」「料理」に関する講座を開設し、越生町ならではの学びの場を充実させた。



〔昆虫講座〕

### (4) 「家庭生活・家庭学習のすすめ」リーフレットの作成

越生町の子供たちの課題の一つに「家庭学習の習慣化」が挙げられる。そこで、義務教育9年間の発達の段階に応じた家庭生活・家庭学習の目標について、町の学力向上推進委員会や生徒指導委員会において、子供たちの実情を踏まえて意見を出し合い、家庭での基本的な生活の内容や家庭学習の時間のめやすなどを設定し、家庭でも簡単に取り組むことができるリーフレットを作成した。



〔啓発リーフレット〕

## 4 研究の成果

- ・子供たちに学習の機会を提供することによって、家庭学習を支援することができた。

～「家だとなかなか集中して勉強する時間がないので良い機会だと思いました。」～

(サマースクールに受付として参加した保護者の感想)

- ・学習支援ボランティアとして、町立小中学校の卒業生にも協力してもらうことで、子供たちやボランティアが、地域社会とのつながりや支え合いの大切さを実感することができた。～「小学生に教えるというのはなかなか体験することがないのでとても新鮮に感じました。小学生から『分かった』といわれると嬉しく感じたので、教えるのも悪くないと思いました。」～

(サマースクールで学習支援ボランティアをした大学生の感想)

- ・学校教職員の地域連携に関する意識が高まり、地域の教育力を生かした教育活動が実現できた。

## 5 課題と今後の展望

- ・コーディネーター、学習ボランティアの人材の確保及び育成を行う。
- ・「地域の子供会」「学童保育室」「スポーツ少年団」など、週休日や長期休業中に活動している諸団体とも連携する。
- ・本事業のPDCAサイクルを確立し、継続して地域の教育力の活用を図る。
- ・更なる家庭学習の習慣化への取組を検討する。

**上里町** 研究指定校：上里町立長幡小学校

**研究テーマ** 子供・保護者・地域みんなで「学校大好き100%」

～伝統を受け継ぎ、地域を担う子供たちの育成をめざして～

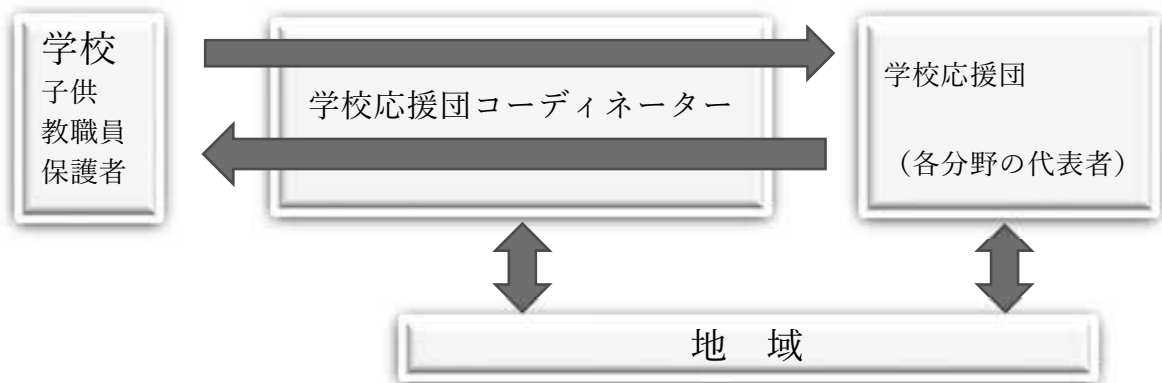
### 1 研究のねらい

本校の学校応援団は大きく6つの分野に分かれて活動を行っている。①梨栽培②安全③読み聞かせ・図書運搬④学習支援⑤学校農園⑥環境整備・緑化である。登録ボランティア合計人数は約50名で、新規登録される方も、継続登録を辞退される方も年に1～2名程度であり、今のところ登録ボランティア合計人数に大きな変動はない。

現在の活動分野を維持する上では人材不足が課題となっていないが、活動がマンネリ化する部分があったり、後継者をどうするかという心配があったりする点が課題となる。また、活動がマンネリ化する部分については、教職員や子供が受け身の姿勢になってしまう点が課題となり、保護者にとっては興味関心が薄れてしまうという課題もある。地域を担う子供たちのよりよい成長のため、学校応援団の事業を推進し、学校が子供・保護者・地域をつなぐ拠り所となるよう本テーマのもと研究に取り組むこととした。

### 2 活動の概要

#### (1) 組織イメージ図



#### (2) 主な活動分野

- ①「梨の栽培」・・・受粉作業（4月）、摘果作業（5月）、収穫作業（9月）、剪定作業（1月）
- ②「安全」・・・登下校時の安全見守りと交通指導（4月～3月）  
登校時7：30～8：00頃 下校時14：00～16：00頃
- ③「読み聞かせ・図書運搬」・・・各クラスでの読み聞かせ（水曜の朝8：25～8：40）  
町立図書館からの図書運搬（各クラスへ）
- ④「学習支援」・・・米づくり体験（5年総合）、東音頭指導（3年総合、4年総合）  
梨農家について（3年社会）、昔のあそび（1年生活）
- ⑤「学校農園」・・・じゃがいも栽培（5年）、サツマイモ栽培（2年）、だいこん栽培（1年）  
ブロッコリー栽培（3年）
- ⑥「環境整備・緑化」・・・花壇整備（5月～6月）、マリーゴールド植え（6月）  
校地内除草・樹木の刈り込みなどの環境整備（9月）  
サルビア植え（9月）、パンジー植え（11月）、  
葉ボタン・チューリップ球根植え（11月）、樹木剪定（12月）

### 3 研究内容

#### (1) 学校応援団連絡会議の開催

年に2回、6月と3月に学校応援団連絡会議を開催している。活動分野ごとに課題を出

第7平成30年度学校・家庭・地域連携推進に関する研究委嘱実践事例

し合い、よりよい活動のための方策等を中心に話し合っている。活動内容、人材確保、活動のための要望など、様々な視点からの意見を出し合い、情報の共有を図ることが可能である。各自が登録している分野以外についても意見を述べることができ、様々な視点からよりよい改善案が出されるようになる。

#### (2) 地域の特産品である「梨」の栽培

地元の梨農家の方に梨畑の提供と栽培にかかわる様々な支援をいただいている。9月の梨の収穫では、保護者から梨農家の方々へ感謝の手紙が寄せられる。1年生の保護者からは、初めての収穫体験での感動が綴られて、2年生以上の保護者の方からは、継続した梨栽培の取組を親子の話題に取り上げてくださり、楽しく学習できている喜びが綴られていた。

#### (3) 「感謝の会」の実施

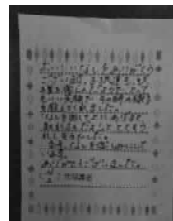
一年間のお礼の気持ちを子供たちから学校応援団のみなさんへお伝えするため、「6年生を送る会」と併せて3月に「感謝の会」を実施。会場内には、保護者・学校運営協議会のみなさんも同席される。



〔学校応援団連絡会議〕



〔梨の収穫〕



〔保護者からの手紙〕



〔感謝の会〕

## 4 研究の成果

- (1) 学校応援団連絡会議を中心として、各活動分野からの情報を収集し、共有することで、よりよい活動のための方策が考えられるようになり、工夫と改善の意識が高まった。また、登録ボランティアどうしの協力体制の輪が広がったり、新規の登録希望者への声かけなどを積極的に行ったりという活動が生まれている。
- (2) 地域の特産品である「梨」の栽培活動を全校で継続して取り組むことで、「美味しい梨の収穫」という共通のゴールを目指し、異学年間の交流が活発になったり、伝統を受け継ぐ意識の向上が図られたりしている。地元梨農家の方々をはじめ、保護者や地域の方々も校区内にある長幡小学校の梨畑を見守ってくださり、子供たちの梨の栽培活動に多くの支援をいただいている。
- (3) 3月に「6年生を送る会」と併せて「感謝の会」を実施することで、子供、教職員、保護者・学校応援団・学校運営協議会の方々みんなで「学校大好き100%」という気持ちを共有している。伝統ある長幡小学校を卒業する6年生が中学生になっても引き続きその成長を見守っていただくことや、4月から新たに入学する新1年生を温かく迎え入れ、在校生とともに子供たちの学校生活を支えていただくことで、地域を担う子供たちの育成につなげている。

## 5 課題と今後の展望

- (1) 各活動分野のマナー化や、登録ボランティア数の減少等に備えるため、まずは学校応援団連絡会議のさらなる充実を目指し、開催回数、開催時間、会議内容の検討が必要である。
- (2) 各活動が子供や教職員にとって受け身とならないように、事前や事後の活動を含めた学習計画を学校応援団の方々と連携して取り組めるようにしていきたい。また、保護者の興味・関心が薄れてしまわないように、各活動の様子を多くの保護者に知ってもらうようにしたい。
- (3) 今後も学校・家庭・地域がよりよく連携し合い、伝統ある長幡小学校での教育活動を通して、地域を担う子供たちの育成を目指していきたい。

**長瀬町** 研究指定校：長瀬町立長瀬第二小学校

**研究テーマ** 学校・家庭・地域連携推進に係る研究

～学校・家庭・地域が一体となった教育活動の推進をめざして～

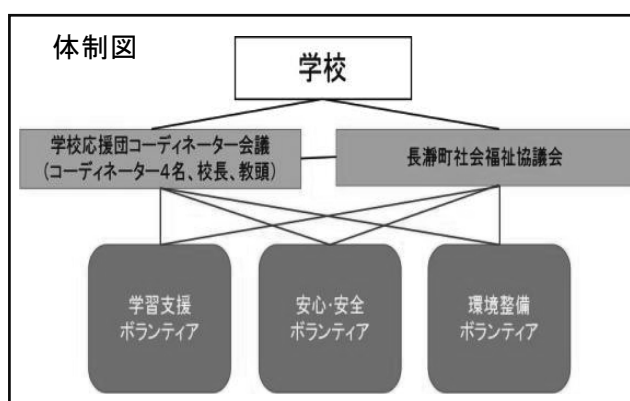
## 1 研究のねらい

本校の学校応援団登録者数は、現在、130名であり、主に「学習支援」、「安心・安全」、「環境整備」の3つの分野で支援をしていただいている。学校応援団の支援により、特色ある豊かな体験活動を行うことができている。

本校の学校教育目標「豊かな心の子、よく勉強する子、健康で明るい子」の具現化に向けて、地域の教育力向上を図るとともに、学校・家庭・地域の三者が一体となって児童の健全育成に取り組むことをねらいとして、本研究テーマを設定した。

## 2 活動の概要

本校の学校応援団活動では、4名のコーディネーターと長瀬町社会福祉協議会がボランティアのコーディネートを行っており、学校で必要なボランティアをスムーズに集めることができている。本校では、学校応援団活動のより一層の充実に向けて、以下の3点について重点的な取組を行った。



- (1) 学校応援団コーディネーターや社会福祉協議会との連携
- (2) ボランティアの方への感謝を伝える手立ての工夫
  - ・お礼の手紙
  - ・学校だより等での紹介
  - ・児童との会食
  - ・学校行事への招待
- (3) 学校応援団活動についての情報発信と啓発
  - ・「学校応援団コーナー」の設置
  - ・学校ファーム看板の活用

## 3 研究内容

- (1) 学校応援団コーディネーターや社会福祉協議会との連携

本校では、上記の体制図のように、学校応援団コーディネーターと長瀬町社会福祉協議会の2つの組織を通じて、ボランティアの調整をしていただいている。コーディネーターは、学区内の4つの地区にそれぞれ1人ずつおり、その都度、ボランティアの調整をしてくださっている。社会福祉協議会では、毎月の定例会議の議題で、ボランティア募集を取り上げていただき、必要なボランティアを集めていただいている。このように、本校では、2つの組織が効果的に機能することによって、必要なボランティアをスムーズに調整することが可能となっている。

学校応援団活動を充実させるためには、学校とコーディネーター、長瀬町社会福祉協議会が常に連携を図ることが重要である。そこで、学校応援団年間計画を配布し、どの時期に、どの学年が、どのような体験活動を行うのかを情報共有したり、学校だよりやホームページ等を通じて、学校応援団の活動の様子を発信したりするようにしている。



## (2) ボランティアの方への感謝を伝える手立ての工夫

本校では、地域や学校応援団の皆様、様々な面で支援していただいている。感謝の思いを様々な場面でお伝えし、気持ちよく応援していただけるよう心がけている。

具体的には、児童からの感謝の手紙をお届けしたり、学校だよりやホームページで学校応援団の活動の様子を紹介したりしている。また、児童との会食等のふれあいの機会を設けたり、運動会や子どもまつり等の行事に招待したりしている。

今年度は、教育週間に大勢の地域や学校応援団の方においでいただけるよう、教育週間の期間に様々な行事を計画し、学校だよりやポスターを作成して広報活動にも力を入れた。その結果、教育週間に行った子どもまつりと音楽鑑賞会には、大勢の方に参加いただき、楽しいひとときを共有することができた。



〔たらし焼きの会食〕



〔教育週間での音楽鑑賞会〕

## (3) 学校応援団活動についての情報発信と啓発

学校応援団活動の充実のために、ボランティアの皆様の支援の様子を児童や保護者、地域の方、学校職員に知ってもらい、さらに関心をもってもらうことが大事であると考えます。

そのために、昇降口の壁面に、「学校応援団コーナー」を設置している。児童が目にしやすい場所に、学校応援団の活動の様子を写真で掲示し、「自分たちは、たくさんの地域の人たちに支えてもらっているんだなあ。」ということを児童が意識できるように努めている。また、学校ファームの看板を積極的に活用し、「今、畑で何を育てているのか」「いつ頃収穫できるのか」などの情報を掲示している。学校ファームの取組が児童や保護者、教職員等に見えるようにして、少しでも関心を持ってもらえるよう努めている。



〔学校応援団コーナー〕

## 4 研究の成果

- (1) 学校とコーディネーター、社会福祉協議会の綿密な連携が図られており、各分野での支援が充実している。
- (2) 体験活動を通して、食に対する感謝の気持ちや地域に対する愛着が児童に育ってきている。
- (3) 支援をしてくださっている学校応援団の方に対して、児童や保護者、教職員の感謝の気持ちも育ってきている。

## 5 課題と今後の展望

- (1) 学校とボランティアが相互に意見を交換しながら、活動をさらに充実させていく。
- (2) 学校応援団の方への感謝の気持ちを伝える機会をさらに設けていく。そして、地域の人たちに対する感謝の気持ちや郷土愛を育てるとともに、児童の健全育成に向け、学校・家庭・地域の三者が一体となって協働する関係づくりに、今後も努めていきたい。

## 行田市

### 研究テーマ

地域の教育資源を活用し、学校と地域が連携した  
放課後の居場所づくり推進のための取組  
～学校と地域の協働組織を核とした主体的参画教室の増設をめざして～

#### 1 研究のねらい

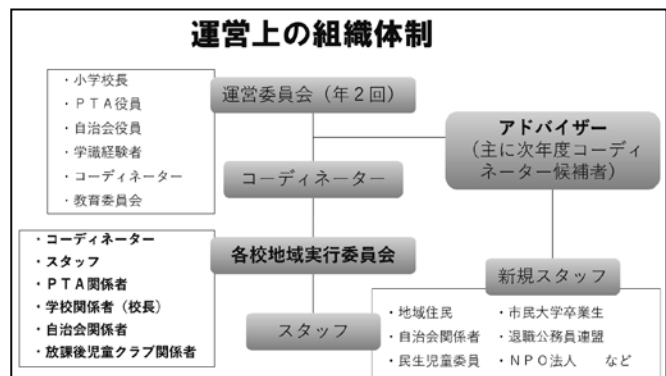
行田市の放課後子ども教室は、地域の方々の参画を得て、子どもたちの安全・安心な居場所を設け、学習・遊び・スポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の取組を実施することにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かに育まれる環境づくりを推進している。平成20年度から北小学校で開始し、今年度は新規校2校を加えた計6校で運営している。

今後も教室数を増やし、2年後には市内全16校での開室を目指しているが、これまでの教育委員会主導による教室運営から、地域の方々を主体とする運営への転換を図り、学校・家庭と連携した協働組織を立ち上げ、自立型の運営をしていくことが必要になると考え、上記の研究テーマを設定した。

#### 2 活動の概要

##### (1) 「各校地域実行委員会」の設置

地域の方が運営の中心となって取り組んでいくことをめざすとともに、学校や保護者等との連携を深めるための組織として、地域実行委員会を設置した。年2回程度開催し、学校との情報交換や保護者の意見を取り入れる場としている。



##### (2) 「行田市放課後子ども教室アドバイザー」の設置

県が行う「放課後の居場所づくり推進事業」を活用し、「行田市放課後子ども教室アドバイザー」を設置した。アドバイザーには、次年度新規開室予定校でコーディネーター候補の方に依頼した。アドバイザーの業務は、新規開室に向けたスタッフ人財確保や、地域・学校との調整役もお願いした。さらに、各アドバイザーの相談役として、研修の実施や人財情報の提供を行う「統括アドバイザー」を設置した。

#### 3 研究内容

##### (1) 各種委員会の開催

年2回の運営委員会により、各校での課題等について意見交換を行うことができ、よりよい運営につなげることができた。また、次年度新規開室に向け、アドバイザーがオブザーバーとして参加することで、実施校から新規校に向けたアドバイスをすることも機能した。

また、コーディネーターを中心とした地域実行委員会の設置により、これまで以上に本事業における学校との情報交換や連携が図られ、学校や保護者からの意見も運営に取り入れることが可能となった。



〔南小放課後子ども教室第1回地域実行委員会〕



〔行田市放課後子ども教室第2回運営委員会〕

## (2) アドバイザーの活用

新規開室予定5校それぞれの開室に向けて、1校につき1～2名のアドバイザーを配置し、スタッフ人財の確保に努めた。具体的には、スタッフ募集のためのチラシによる各学区の自治会で回覧や、学校を会場とした事業説明会の開催を行った。さらに、各地区において直接交渉をすることでスタッフを集め、スタッフ会議を開催し、学校との日程調整や活動メニューの作成をした。

また、行田市民大学卒業生の人財情報提供や、新規開室に向けたスタッフ候補者説明会での助言、新規スタッフ研修会において運営マニュアルや安全管理マニュアルの説明などを行う、統括アドバイザーを設置した。



〔統括アドバイザーによる説明〕



〔新規スタッフ説明会の開催〕

## 4 研究の成果

- (1) アドバイザーの設置により、新規スタッフの登録が進み、「行田市放課後子ども総合プラン」の当初計画を上回るペースで新規開室を円滑にすすめることができた。
- (2) 地域実行委員会の設置により、学校・保護者との連携が深まり、自立型の協働組織とすることができた。
- (3) 生涯学習団体の人財を活用することにより、生涯学習の循環を図ることができた。

## 5 課題と今後の展望

- (1) 生涯学習団体による安定的なスタッフの確保と、スタッフの高齢化等に伴う円滑な入れ替わりを可能にする。
- (2) 未実施校での運営の柱となる人財発掘と、現在実施校の活動内容の充実に努める。
- (3) 学校応援団や放課後児童クラブ（学童保育室）との連携を図る。

平成30年度  
「地域学校協働活動」  
実践事例集  
埼玉県教育委員会

平成31年3月発行

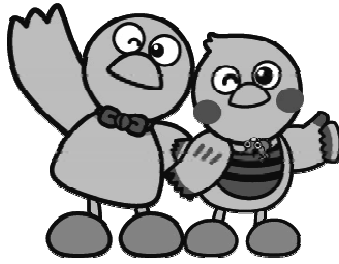
編集 埼玉県教育局市町村支援部生涯学習推進課

〒330-9301 さいたま市浦和区高砂3-15-1

電話 048-830-6979

FAX 048-830-4964

E-mail a6975-05@pref.saitama.lg.jp



埼玉県のマスコット「コバトン」「さいたまっち」